

開校10周年に向けて

青垣小学校 校長だより

令和8年2月号

発行責任者 植木政行

生涯学習の町・青垣～みんな学んでいきいき人生・ともに学んで伸ばそう青垣～

令和6年10月3日に、青垣小中学校学校運営協議会が、青垣地域子どもを育む協議会とともに、「青垣地域コミュニティ・スクール『意見交流会』」を開催しました。青垣地域で育ち、将来の青垣地域を担う子どもたちを育むために、青垣地域コミュニティ・スクールとして共通の目標・ビジョンを持ち、それぞれの立場で何ができるかを考え、意見交流を行いました。この討議を深めるために、青垣福祉会理事長の畑田久祐様に「まちづくり生涯学習がめざしたもの」という演題で、当時の青垣町公民館の施策についてお話をいただきました。その内容を紹介します。



青垣地域コミュニティ・スクール『意見交流会』（令和6年10月）

【まちがつぶされる】

「紅葉の美しいところは貧しく 水の清いところは人が住みにくい
緑豊かなところは不便で過疎が進む
さらに高齢化の進行がこれに輪をかける。」

昭和25年11,500人あった青垣町の人口が昭和55年には8,200人となり、30年間でなんと3,300人が減りました。このような様替わりの中で、心の過疎という恐ろしい現象が現れ始めました。過疎化のマイナスイメージがどんどん広がっていく中、どう生き残るかが青垣町の命題でありました。



畑田久祐様

【「生涯学習の町・青垣」宣言】

地域の根本的課題として過疎化と高齢化の克服、さらに、地場産業の進行や青年層の結婚問題の解決などが横たわる中で、生涯学習の推進をその問題解決のための第一義的な行政施策と位置づけ、住民の社会連帯を強めることによってその突破口を開こうと考えました。

家庭教育・学校教育・社会教育の統合が生涯教育であり、その推進を町政全般施策の中心にしっかりと位置付けました。

【分館活動】

青垣もみじの里健康マラソン大会

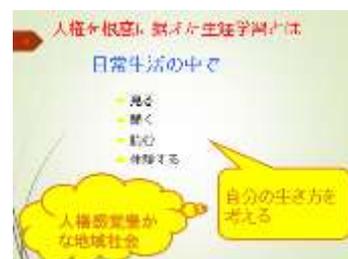
従来からあった集落の47公民館を分館に位置づけ、本館の青垣町公民館の方針が浸透するようにしました。生涯学習は個人の成長だけの学習でなく、まちづくりに役立つ学習スタイルとして、一人一技運動を推進しました。



青梅マラソンを見学したとき、90歳のおじいさんが赤いパンツをはいて元気に走っているのを目の当たりにして、これを青垣で、との思いで決まったのが青垣もみじの里健康マラソン大会の始まりです。来年参加するための学習メニューを自らが設定し実践する仕組みがイベント学習メニュー方式「青垣方式」として全国で注目を集めました。

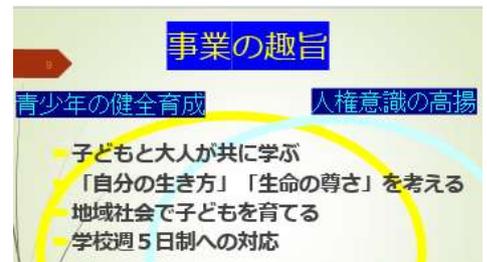
【生き方を育む校区事業～人権を根底に据えた生涯学習～】

青垣町が目指す「人権を根底に据えた生涯学習」とは日常生活の中で見たり、聞いたり、読んだり、体験したりしたことなど、身近に起こった出来事から「自分の生き方」を考える生涯学習です。そしてこの「自分の生き方」を考えることが人権感覚豊かな地域社会を作ることにつながります。大人の活動としては分館活動などを中心に展開されていきました。「生き方を育む校区事業」は子どもを中心に校区全体で取り組む事業です。



【生き方を育む校区事業の趣旨】

この事業には健やかな子どもを育てる青少年の健全育成と子どもと大人の人権意識の高揚を図る2つの柱があります。そして、その中に4つの共通の目的があります。その一つ目は子どもと大人がその活動を通じて「共に学ぶ」ことを目指します。二つ目は「共に学ぶ」ことで子ども、大人それぞれが「自分の生き方」「生命の尊さ」を考える機会を提供します。三つ目にこの事業を通じて地域で子どもを育てる意識を啓発していきます。そして、学校週5日制に対応する、地域で子どもを育む事業として活動を展開しようと考えました。



青垣地域コミュニティ・スクールの取組～「生涯学習の町・青垣」の継承～

【学校支援ボランティア】

「生涯学習の町・青垣」の取組は、青垣地域コミュニティ・スクールに継承されています。青垣小中学校学校運営協議会では、年間延べ300名を超える地域の方が学校支援ボランティアとして、学習活動に参加してくださっています。「一人一技運動」で自分の得意な技・できることを生かして地域貢献をされてきたことを、子どもたちの電動糸のこぎりやミシンを使った活動の支援、読み聞かせボランティア、登下校・校外学習の見守り等につなげてくださっています。



ミシンを使い、修学旅行で使うナップザックを作成

【あったか言葉～青垣小学校開校以来、学校運営の柱としている取組～】

学校運営協議会では、本年度の小中学校の取組について評価を行っています。その中で、小中学校の児童と保護者のアンケート調査では、人権教育について次のような結果がありました。

- ・「友だちを大切にしていますか」の質問に対する肯定的な評価 児童97%・保護者96%
- ・「あったか言葉を使って、よい友だち関係を作ろうとしていますか」の質問に対する肯定的な評価 児童94%・保護者86%
- ・「自分の良さも友だちの良さも大事にしながら、友だちと協力していますか」の質問に対する肯定的な評価 児童94%・保護者94%

青垣地域で「人権を根底に据えた生涯学習によるまちづくり」が推進されている中で、これからも「地域とともにある学校」として、すべての項目で、肯定的評価が100%となることをめざします。一人ひとりが大切にされ、安心して成長できる環境を整えていきます。

【6年生人権学習発表会 3月5日(木)午後1時40分～午後3時10分<青垣小学校体育館>】

6年生は、同和問題や障がい者・ハンセン病患者の人権問題、ジェンダー、人種差別、いじめ問題等、さまざまな人権課題を解決するために学習を進めてきました。1月29日(木)には、青垣地域子どもを育む協議会の人権教育事業として、奈良県の西光寺と水平社博物館で現地学習を行いました。西光寺の清原隆宣住職の講話から、「人が作ったまちがったものさし」という内容で、子どもたちは次のことを学びました。



西光寺清原隆宣住職講話

- ・大事なものは人の命 人の命はみんな尊い 命のねうちはいっしょ
- ・等しいねうちの中に、自分の都合のよいまちがったものさしを持ち込めば、差別が生まれる。男女差別、人種差別など

- ・知らず知らずにまちがったものさしを使ってしまう。
- ・人間は尊敬すべきもの。あるがままにまるごと認め合う。
- ・すべての人が幸せになれる社会をつくる。その先頭に立つ。

6年生は、『気づこう！自分の中のまちがったものさし』というテーマで、地域の方に自分たちの思いを伝え、自分の生き方と育むために地域の方と一緒に考えていきたいと願っています。ぜひ、多くの皆様に青垣小学校にお越しいただきますよう、お願いいたします。



水平社博物館での調べ学習